

学生発！この一枚が商店街と学生をつなぐ

「あらメシ」MAP からはじまる、荒町の物語

4/28(月)「あらメシ」MAP 完成報告会を開催

東北学院大学の学生に、ご近所の荒町商店街に足を運んでもらい、“荒町らしさ”を知ってもらいたい。

東北学院大生と荒町商店街振興組合と(株)ユーメディアが荒町商店街の MAP を共同制作。

このたび、東北学院大学の学生と荒町商店街振興組合、株式会社ユーメディアが連携し、荒町商店街の魅力を“学生目線”で再発見・発信するグルメ MAP「あらメシ」を完成させました。つきましては、下記の通り完成報告会を実施いたしますので、ぜひご取材くださいますようお願い申し上げます。

「あらメシ」MAP 完成報告会 開催概要

日 時：2025 年 4 月 28 日（月）（時間：18：30～）

場 所：東北学院大学 五橋キャンパス シュネーダー記念館 1 階「未来の扉センター」

内 容：学生・関係者による制作報告、取材対応ほか

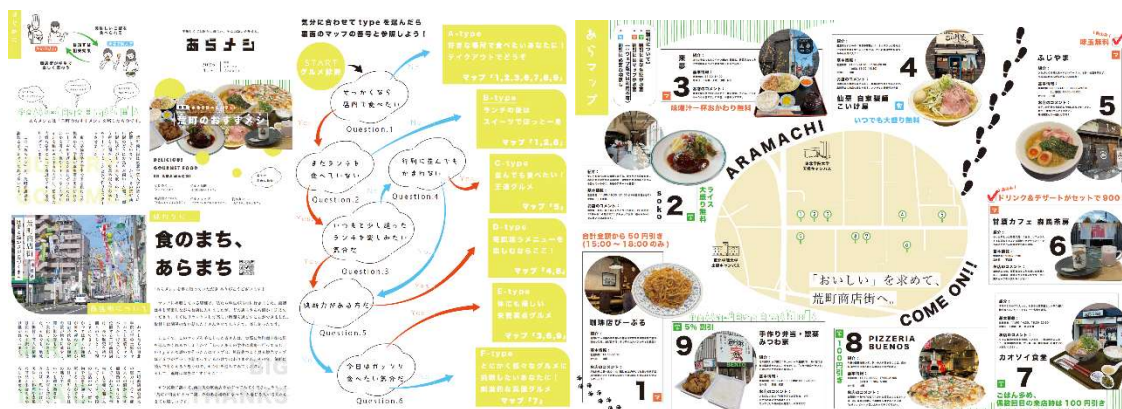
「あらメシ」は、学生が“ご近所”の荒町商店街に足を運びたくなる仕掛け満載のグルメMAPです。歴史と温かさが息づく“荒町らしさ”を未来に残したい——そんな想いから、東北学院大学の学生 5 名と荒町商店街振興組合、株式会社ユーメディアが約 1 年かけて共同制作しました。

「荒町のミライチズを描こうプロジェクト」の一環として誕生したこのマップでは、学生自身が商店街を取材。「知らないから行きづらい」という学生の声に寄り添い、飲食店を“グルメタイプ診断”に応じて紹介するなど、楽しく親しみやすい工夫を凝らしました。さらに、マップ提示や学生証の提示で受けられる割引特典も掲載されており、まさに“学生の、学生による、学生のための商店街ガイド”です。

▼MAP を制作した学生



▼「あらメシ」MAP



マップタイトル：「美味しくしてお財布に優しい。そんな願いを叶える。～あらメシ～」

「あらメシ」配布場所

- ・東北学院大学 五橋キャンパス シュネーダー記念館（1階）未来の扉センター内
- ・東北学院大学 土樋キャンパス 8号館（2階）ロビー、学生課前のカウンター

▼マップ制作のための定例ミーティングの様子

東北学院大学、荒町商店街振興組合、(株)ユーメディアのプロジェクトメンバーが一つのテーブルを囲む。



※荒町のミライチズを描こうプロジェクトとは

2024年5月にスタート。仙台市若林区荒町の“荒町らしさ”を100年後の未来まで残す活動を通じ、未来型地域連携の土台づくりを行うことが目的です。特徴は、学生と地域の人が対話とアクションを繰り返すプロセスを重視していることです。また、学生・大学・企業・地域団体・地域住民等、多様な主体を増やし、活動（記録）を次年度へと引き継ぐサイクルをつくることで、持続的なプロジェクトを目指しています。2024年度はA・Bの2つのグループに分かれて企画を進行してきました。Aグループが、東北学院大生向け荒町商店街飲食店マップづくり（こちらは今回完成） Bグループでは、荒町ニューダンスプロジェクトを現在も進行中。「荒町の歴史を身体で体感できる新しい踊り」をつくり、地域の方や学生と、2025年8月の毘沙門天王祭で披露することを目指しています。

プロジェクトの中心となるのは地域の未来を担う大学生。学生は荒町の町長になったつもりで、荒町地域の方と対話し、ともに施策を企み、プロジェクトの各主体がリソースを持ち寄り、ともに実現を目指します。2025年度はプロジェクトに地域に住まう方（主に町内会の方）も加わり、より地域に根差した活動へと深化させていきます。



プロジェクトの主体メンバー



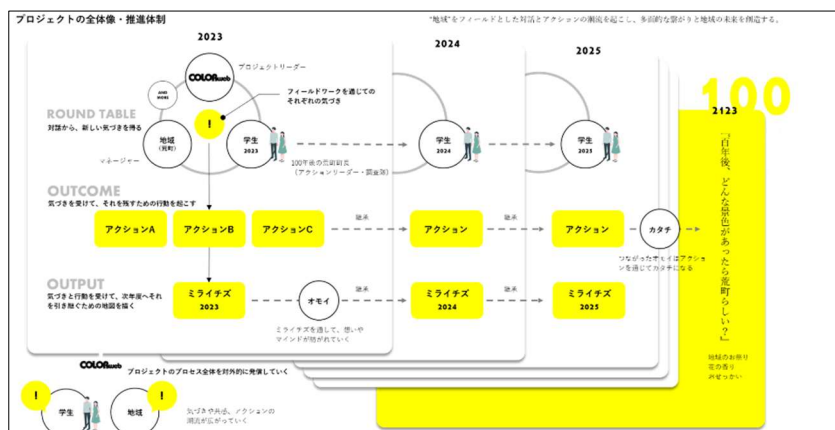
東北学院大学



100年後も賑わう商店街へ。
荒町商店街 振興組合
Aramachi Sendai City

U-media

東北学院大学（仙台市、学長：大西晴樹）・荒町商店街振興組合（仙台市若林区、理事長：佐藤隆俊）・株式会社ユーメディア（仙台市若林区、代表取締役：今野均）が取り組む、荒町地域をフィールドにした未来型地域連携『TAU ラウンドテーブル』。多様な主体が参画し、リソースを持ち寄り推進することで、まちの課題を協働で解決する土台を築くことを目指します。（2025 年からは地域に住まう方（主に町内会の方）も参加予定）



【本リリースに関する報道お問い合わせ先】

<TAU ラウンドテーブル事務局>

株式会社ユーメディア コーポレートデザイン部 担当：阿部

TEL：080-8605-9522 e-mail：c-abe@u-media.jp